

てもひ返す亦外乎一人の客あり其人の渡紙とうじ居とひ又
兵衛再般まへ出しけども借もうるゝを男あり然りと謝ふ
あくへ泉水の水と換て下さりふ又兵衛詮方あり泉水
とくく換て居まづ然るに亦一人の男来り峻山の主人小手と
てく過日まへ上駄ぬく墨の價ひくべに泰り侍入り
り峻山聞てかくも價ひも合ひば后の日来り本寺まへ^ト
取よせ置べりとりひきると彼とくと小僕や遠方あると
願くへ唯今りぞれと取りて侍立り峻山聞て借も
うるゝは男が今日一錢もあり再の日來り少くまへ
乍然そきやくふ云む遣はべりと身辺看みやども何も
有り

かへ頃て波又兵衛とくびて足嚮のりと下さり
云ひきり又兵衛とくとくと笑ひと忍び懷裡より嚮
の銀札一封と把り峻山のすへよ置きも峻山あひと
封のすへ彼男小投あへ亦渡紙ともくち居り墨屋の男
そく包と受へり外面の方へ出去りかやぐ亦取り未
可墨の價ひ六りん目あく侍ふ是モナリ今やあく餘分ふ
千般の吏とくとくと見男あれ何處も節季の吏ふと
よみて看向もやくば書居り墨屋の男わへひあく銀札
四枚を出しつぶさへお置て去り跡すく又兵衛机上銀札

あつて看苦シテとひが紙ふせて大ハア筆筒の中へ入ル。少時あつて又兵衛ち飯スをス然スして五十日餘ハ過ルて又兵衛スうスび扇面ゼン小書シヨウと願スんと峻山の庵スと訪スる。す當日峻山案上スりスれ詩と賦フて居スりス又兵衛案の上スと見ス。嚮スの頃筆筒の中へ入ル。入ル銀札の紙包マサニの修塙スとス。あつとよあつて有スるみを峻山のゆめふかス。氣性スとひくい感ス。尊ス。這一條則ス。高尾又兵衛語ス。今猶同國南方中殿藥王寺松林中ニ峻山の墓ス。天如道入和尚墓スと記ス。碑文ス撫養ムヤの祥葉子是スと作ス。名文スのよス。是ス小姓ス。是スと看ス。

○行水政右衛門

室曆明和のう後武藏の國豊島郡代々木村とス。處不ス行水政右衛門とス者あつた。農家スて身上大ハ富ス。這政ゑりん壯年ス暑寒スも冷水ス行水ス事ス。おも夏の夕湯スと以身スとあく汗スと流ス去事ス。世間ス同ス。夏あく獨這政ゑりん水スとりス身ス洗ス。夏ス。冬極寒スの時スとりス盤ス没ス行水ス。亦食事スも熱スきりスと食ス。皆悉ス冷物スと食ス。飯汁野菜ス。づひり一端ス焚ス。其外何スすれ熱スりス食ス。



寒中風雪あどの日他へ行て飯をば忽ち井の水を汲せ
背より五六度ある夫より躬をぬうひて象み入て座
少時あくとやく大つ不温きりゆ云うるもあく
父這事と問ふ尋ひ政をりんふ出會して談話
せ小當時齡百六歳あるも歯一枚も抜けず髪り白髮
足らず小はくつりて色白く元来躬達者みて當
日庭上不薪と破て居たとあり奈何あれば然むに冷
物の好きと聞ふ政をりん答て云う都て人寿百
歳とて百まで生らるゝ物ありと世間の人多く色食の二
命と縮て死るあり今ま世人の如く熱食

の時に時々忽ち氣の上了病あつて頭上熱く下冷
あつて外巣ふひは是則ち下より死支度ひ初
あつて知べて愈色食のニッハ心と身を繰りハモリ
く真府小物ももくりと數り此事からばや我如く冷物の
食ひ時々下熱さふ上冷て寿永としとが亦熱き湯水入て沐
浴おんせんるとき總身血のあくあくあらうあらう我壯年なまぢねん
うう冷物の食た水みず沐浴おんせんりやりと百餘年の今日
あら病病とりふ吏じと知べ願ねが世入我如くよし長壽ながぜを保
あらへ然ぜんものかの生う如く真まの冷物れいものら速すも食たう
うう一唯熟食じゆしょくとやく温ぬるきりのと食たべ湯ゆもあら
うう

と浴おんせんると教おしえるとあり這政まきまさゑりん夫おとこよ後あとも猶無病よむびやうを
久ひさく存ぞの命めいせうとを聞きく

輯者曰く此政右清門がりひ一詞大おほき依よどくうり
都つゝて人熱あつ食たひる時ときも食物の毒五臟六腑ごくうちろくふ小染そそつつく故ゆゑ
自あら病腹びやく中なか小生あづありあ冷食れいしょくひる時ときの毒どくあるありあも
五臟ごくうち小染そそづづ角象牙かくじやのの赤あいあ染そそんんししる時とき
煎せんじじ薙なぎ芳ほう冷れいして染そそづづ幾いくとと塗ぬりり色いろづづ熱あつ
湧わきして染そそづづ時ときハ角かくの如ごき堅かたき物もの染そそづづるる有あ
爰あざざと熟食じゆしょくの毒腹どくはら中なか小染そそづづと悟さとべべ然ぜんば藥やく見み
くくと腹はらが能のき道理ぢあり熟食じゆしょくすわが齒はの赤あく

あると身中骨あど色着事知べー寒中熱き物と
食をと當時の凌ぐやうかく少時もれべ忽ち
寒とゆり寒巨爐ふ入べ出て後さへ初
小勝るやう寒中外面と距てありく活業の人へ自ら無
病あり亦好で熱酒とのも人あり鼻の先頬けく赤くあ
て看苦き物ありやう柘榴鼻とひふ物があるも熱酒乃
わきありもくし夫らの皮あくとも腹中に病と生び
更疑ひあ鳥獸の毛ぐら常に冷食すが病あり
食えりは是より病おこうと看へ一鳥獸齒とみがさ
一更あくもり冷食をとむが齒の色白一湯も常小

熱と浴をば血氣めぐりあるとりへり理か
常小熱き湯と大人よく中風の病と生べ別て東都の熱
浴室と好んで入故小東都ふら中風病の人多一政右衛門
如く水の浴室入べり奈何ふも温き湯入て
よけれ政ゑりん常ふ云一吏あり凡世界に水や、尊き
物かと實ふ其如一五行一ツ蘇ても叶ひぬ物あり
も其中水と以て五行の長とゆるあり木火土金の類ハ三日
五日かとくも金の細く物あり晋の文公過古く今子
推と焼殺して死火の賢人と失ふりのあくとて恨て國中は
火と断事一百五日と云り水を一日停止せられあが天下

の人民悉く死ふやうべし——然を水やど尊ひありか
く理ある更あり。

○有難與一兵衛

天明寛政のころ備前の國邑久郡富岡村ふ油屋與一兵衛と
りふ者あり。又氏の小山名も壽信農家にて大いふ富士
岡山の土松島省外とふる人の弟子ふたりて心学と壽ら尊み
月毎五六度づ席と設て松島大人と請待。近村の人々咸
勧め道話を聞け。又善道小導く事あつた。バ遇不行跡の
人を看くれば自親其家ふ行くやうのき未だ。と教諭
一善心ふゆく。一年中國中と跑了。人。

心学をすゝめ其躬を若干の物と費し。會席と構へて専
ら善道ふひき入る者との樂をあへけふと煙火國廳
小達。國の守より褒賞と給り。夏三度ふね。這子
一兵衛ふひきの癖あり。常ふハツアあり。ふへと云事。日
小幾百度とかく。朝起きて母の顔と見てハツア有
り。之亦妻の顔と見てハツア有難ひ。云ふ。兄弟の顔を
見てハツア有難ひ。何を然様か。云ふ。云ふ。
と問ふ。當日も且母兄弟妻ふれ。恙かに顔を見る。ハツア有難
え。あへや。答ふ。門口ふ人来。案内とて。与一兵衛
フナハツア有難い。と云ふ。出立する人の案内。一兵衛は善事。

未^タやあ^ハ、凶^キ更^フや^リ其^幹事^ア、何^故有^ス?
云^フと問^フ、未^タ一人の幹^ニ善惡^ア、^トりへ
我^リも^シ聞^ク、答^フ耳^モ敏^ク、躬^モ達^者
ハツア有^難い、更^フあ^ハ、^トり^ス期^テ未^タ入^ル
物語^シ、在^ク間^モア^ハ、^ハア有^難いと^シ事^ニ
其^人別^シ、飯^モ食^ムも、簪^モ端^シ、お^カ出^ス
ハツア有^難い、亦途中^モ人^モ遭^フ、^ハア有^難
云^フ腰^モ、何^故か^シ、^ト問^ハ、^ト、^ハア有^難
て、這樣^モ、對面^シ、^ト、^ハア有^難い事^ア
一日外^モ、^ハア有^難い急雨^モ、^ト、^ハア有^難い事^ア
我家^モ前^モ



轉ひ藤をきり破り血の流と見てハツア有がくと
下僕是と助あくスヤシに疵と蒙らまひ何ぞう難き事の
あんと細語うなづかと轉て蹇とありとどがまく我廉忽
せん方あれと斯りうる疵と車濟ハツア有がくき事
らばやまゆ亦一時近辺の馬一足もあふ狂りく走マ来マ
兵衛是とあくび行當マ踏倒マと遠マめれ上マハツア有
難いより何がありかとぞや問じ馬又踏殺ミモリ詮方を
一か年うに恙あれハツア有難き事ありと何ふくば
あくかく云事口癖マ止時ア爰とよりて世人傳
号一と有難与一兵衛と近國近郷隱シテ太甚名高きも
者ありと其役ふとて置マと敦園ありと云々

のとおき一時近村の産神祭祀ナムトカクナ奈何
不計往来の人ふ行當ア頭うち合セアリ年一兵衛何も云波
ハツア有ガウマ云々去過人向の人大玉脇ア人行
當マ記言もヤハ有難りと云て嘲笑ひ居テ保山那里的
者ありと其役ふとて置マと敦園ありと云々

兵衛大り小おどり打かく也賤老う説毛はまくと有
難りと申次事常次云々侍ふ唯今無礼もアヘマ
免給えー小老ち這隣村マ一兵衛トヤマヒ者云々侍
と云々向の人是と閑て儲もあくかと一兵衛どの小僧
ふう然様と云ひて大り小無礼をヤマヒ万望也

天保六乙未年
弘化三丙午年刻成
肆書江戸岡田屋嘉七
京錢丸菱林秋伊丹屋市兵衛
屋善孫兵衛
大坂河内屋喜兵衛
河内屋茂兵衛
太古衛門
田屋善兵衛
屋市兵衛
芳兵衛
善兵衛
屋善兵衛

免へり。うそりと却て向の人より只管ふとび言へ。忽ちふ更
游あがひふ別んと。うち時ハツアありかといと云々去過
くる衆人大りふ笑ひ。近松何がり。ちづくに彼あり。か
猶壯健か。と。近松何がり。ちづくに彼あり。か
の吉兵衛とよ。相似くる老人か。あり